後期佛教の修行技術

愛甲次郎

中國、朝鮮に三國時代あるが如く印度にも三國時代ありき。八世紀より十二世紀に掛け東印度（現在ベンガル州及びビハール州）を支配せるパーラ朝はその三國の一なり。佛教を保護すること極めて篤く、その建てたるヴィクラマシーラ大僧院は總合大學の機能も兼ね、ナーランダ大僧院と並び當時の佛教の總本山なりき。學生千人、教授百人を擁し、修行技術の精緻化に努めたりと言ふ。

當時佛教は王侯貴族、大商人の尊崇を集め、一方ヒンドゥ教は農村部に根を張り、互に切磋琢磨す。その結果修行技術は極度に發展して、遂に超感覺の次元を極むるを得たり。初期の佛教徒のうちブッダの到達せる境地に達せんと欲する者、ブッダの悟りを瞑想の狀態において再現せむとす。そは呼吸法、イメージング等の技術を驅使し、氣のエネルギーのコントロールを通じ腦に適切なる刺激を與へ、微細次元の情報處理を司る第二神經系とも言ふべき神經囘路を發達せしむることにより可能となる。この技術は死のプロセスのシミュレーションをを取入るるに及びて完成す。これにより高僧等は超能力を獲得するに至れり。佛教はこの時期より後期佛教の時代に入る。

ヒンドゥ系の技術は高度のヨガのテクニックとして後世に傳はり、歐米人の好奇心を惹きぬ。一方佛教系のものはこれとは異なる運命を辿りき。九世紀より印度に侵入せしイスラーム勢力は東に向ひ在來勢力を驅逐し、遂に千二百三年にはパーラ朝の後繼王朝を倒し、ヴィクラマシーラ大僧院を破壞し盡す。僧院長以下高僧は擧って北を目指しヒマラヤを越えてチベットに亡命す。そのため後期佛教の修行テクニックは其の儘世界の屋根に溫存せらるることとなる。氷と雪によりて外界より遮斷せられたれば、溫存と言はむりは冷藏と言ふべきか。シルクロードを經て東アジアに傳はりし佛教は中期佛教までのものなれば、東アジアの佛教徒はかかる高度の修行技術は遂に知ることなし。

ヨガとして知らるるヒンドゥ系の技術は、十九世紀までは師資相承の祕傳として公開せられざりしが、十九世紀末に及びヴィヴェカーナンダ、パラマハンサヨガナンダ、オーロビンド等の宗教家によって歐米に紹介せらるるに至る。また斷片的知識はそれ以外の經路を經て外部に擴がり、特にニューエイジサイエンス以降はかかる知見に關心を有する若者の現地修行を通じて傳はりしもの少なからず。近年所謂スピリチュアルなるものに對する一般市民の關心高まり、各種の講習、講座にて諸々の行法紹介せらるるに至る。されどその多くは斷片の域に留まり盲河の如くいづこへも導かず。またこれにより往古の高僧の如き超能力を得たりと言ふことは寡聞にして更に聞かず。

一方佛教系は千九百五十三年の中國人民解放軍のチベット侵略により亡命を餘儀なくせられたるチベット僧により歐米に浸透せり。これは斷片的に傳えられしヒンドゥ系に比し體系的教授法保持せられたれば、修行法の中核に達するには永年の忍耐を要すれど、その行法は理論實踐、車の兩輪をなし、そのカリキュラムは壯大なる一構造物を形成す。我は之に惹かれてその修習過程に入れども道のあまりに遠きにただ茫然とするのみ。科學の協力によりてこれ等の修行法効率化を進むることを得ば、人類の靈的能力の向上に多大なる貢献あらむ。奇特なる人々の現れて兩者の融合を果さむことを切に祈るものなり。

（平成三十年十二月二十四日受附）